

## 平成28年度 部局自己評価報告書（31：教育情報基盤センター）

**Ⅲ 部局別評価指標(第2期中期計画取組分)**

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限：(1)～(2)合わせて7,000字以内

**(1)全学の第2期中期目標・中期計画への貢献及び部局の第2期中期目標・中期計画の達成に向けた特色ある取組等の成果(㉓)**

◎[全学第2期中期計画 No.8： 受入れ留学生の増員を促進するため、留学生の受入れ環境の整備を進める。]

・本センターはこれまで、学生が利用するオペレーティングシステムやアプリケーションソフトウェア、利用ガイドの多言語化を推進してきた。平成27年度分の取組みについては、本報告書「Ⅱ-1-(1)：国際レベルの人材育成に関する取組及びグローバルな修学環境の整備」参照

◎[全学第2期中期計画 No.13： 効率的・効果的な教育を展開するため、eラーニングによる教育システムの拡充を図る。]

・本センターは第2期中期において、ISTUシステムの機能開発と高度な利用法の推進を通じてこの中期計画項目の達成に取り組んできた。ISTUシステムは本学における教育情報化及びeラーニングの共通基盤であり、第3期中期においてもそれは変わらない。平成27年度分の取組みについては、本報告書「Ⅱ-1-(2)：学生支援の充実・強化」参照。また、「Ⅱ-2-(4)：研究費の管理等の適正化に資する取組」と「Ⅱ-2-(5)：研究活動における不正防止に資する取組」で触れたように、ISTUシステムは本学職員を対象としたeラーニング研修の拠点としても積極的に活用されている。

◎[本センター第2期中期計画]

・本センターの特色ある取組みとして『デジタルキャンパスプロジェクト』(平成22年9月21日部局長連絡会議報告)を推進してきた。このプロジェクトが解決すべき課題として最初に挙げた8項目のうち、基盤整備を要する6項目は、平成26年度に情報シナジー機構の事業としてDCメール(本報告書Ⅱ-1-(3)参照)の導入を最後に一連の整備を達成した。ただし、学生の携帯端末(スマートフォン、タブレットPC、ノートPCなど)が大学のネットワークを快適に利用できる環境づくりは遅れていて、課題であった。そこで平成27年度には、川内北キャンパスで学生が利用する施設のほとんどに無線LAN(eduroam)のアクセスポイントを設置し(本報告書「Ⅱ-1-(2)：東北大学復興アクションの着実な遂行」参照)、この課題も解決された。

**(2)「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策及びミッションの再定義(強み・特色・社会的役割)の実現に向けた取組等の成果(㉔)**

◎[部局ビジョン重点戦略・展開施策1：新しい全学教育情報教育の策定と実施環境の整備]

・「新しい全学教育情報教育の策定」については本報告書「Ⅱ-1-(1)：国際レベルの人材育成に関する取組」参照。

・「実施環境の整備」については、平成27年2月に情報教育用ICLシステムを更新して完了している。

◎[部局ビジョン重点戦略・展開施策2：教育用情報サービス・コンテンツの充実と合理化]

・本センターが推進してきたデジタルキャンパスプロジェクトは、教育用・学生用の情報基盤整備としては、平成27年度に川内北キャンパスに整備した無線LAN(eduroam)によって概ね達成された(本報告書「Ⅱ-1-(2)：東北大学復興アクションの着実な遂行」参照)。

・eラーニングコンテンツについては、主に外国語学習用を平成26年度までに整備した。ただし、現時点で

導入されている TOEIC 対策教材だけでなく、TOEFL 対策教材についても今後、検討を進める必要がある。

◎[部局ビジョン重点戦略・展開施策3:全学的な教育情報化の展開]

- ・全学的な教育情報化の共通プラットフォームである ISTU システムは平成 28 年 3 月に更新され、平成 28 年 10 月から本稼働を開始する。これによりインフラとしての整備は一段落するため、第 3 期中期においては、効果的な利用法、新しい高度な利用法などの開発と普及に努める必要があり、それが次の版の「デジタルキャンパスプロジェクト」と位置付けられる。
- ・この項の平成 27 年度分の取組みについては、本報告書「Ⅱ-1-(2): 学生支援の充実・強化」参照。また、「Ⅱ-2-(4): 研究費の管理等の適正化に資する取組」と「Ⅱ-2-(5): 研究活動における不正防止に資する取組」で触れたように、ISTU システムは正規授業だけでなく本学職員を対象とした研修の拠点としても積極的に活用されている。